

## 「都にとどまれ」

(ルカの福音書 24 章 44～53 節)

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらのことの証人です。さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」 (46～49)

本日は「母の日」礼拝です。娘アンナが「あなたの父と母とを敬え」(出エジプト 20 章 12 節)のみ言葉に基づき、“母の愛にどのように感謝の意を表すればよいか考えなさい”とのジャーヴィス夫人のかつての勧めを真剣に受け留めたところから始まったのです。この日は母に感謝するだけでなく、その母を私たちに与えて下さった神様に感謝をする日です。また、その母の遺したものをしっかりと受け留める決心の日であり、献身を表明する日でもあるのです。

ルカの福音書 24 章は内容的に 4 つに分解されます。①1～12 節、復活、②13～35 節、エマオ途上のふたりの弟子たちへの顕現、③36～43 節、弟子たちへの顕現、④44～53 節、イエスのことばと昇天、です。今日は④の箇所からです(並行記事はマルコ 16:19-20、使徒の働き 1:9～11)。

復活された主イエスが語られた内容は以下のことです。主イエスは閉ざされた心を開かせて下さる御方で、そのために聖書をひもといて下さる御方なのです。①「聖書(モーセの律法と預言者と詩篇)は必ず成就する」こと。②「キリストが十字架上で死に、復活された」こと、③「罪の悔い改め」と主イエスの名により「罪の許し」が与えられること、④その福音が「エルサレムから始まって全世界に宣べ伝えられる」こと、⑤弟子たちはそのための「証し人」であること。⑥その使命に与るために「父の約束してくださったもの(力)」を送ること。⑦そのために「都に留まっていなさい」と命じられたこと、です。その後、主イエスは彼らを祝福し、天に昇られたのです。その光景に接した人々は「非常な喜び」を抱いてエルサレムに帰り、「神をほめたたえた」のです。その背後には「約束の聖霊」を祈り、待ち望み、聖霊に満たされたことによるのです。私たちも「聖霊」を受け、「都」(最も困難と覚える場、失敗した所、家庭)において「証し人」としての使命を果たす者と変えられてゆきたいものです。